

LANI・CAFÉ

だより



April 2016

第2回 座談会—長期海外留学—（報告）

2015年5月19日（火）

進行：中尾充良先生（以下、中尾）

パネリスト

<オーストラリア留学>

文学部3年 山崎 桃子（以下、山崎）

<ニュージーランド留学>

短期大学部2年 山田祐里奈（以下、山田）

<中国・上海留学>

地域政策学部4年 稲生 理沙（以下、稲生）

<台湾留学>

文学部3年 川口 舞（以下、川口）

<フランス留学>

文学部4年 杉田 竣祐（以下、杉田）



～第1部～

（中尾）今回は、海外留学から帰国した学生に留学体験を話して頂き、お互いの経験を交換したり、また、これから留学を考えている人にはぜひ参考にさせていただきたく、このささやかな座談会を開きました。まずは、1人1人の体験談を写真も見せながら5分～10分くらいでお話いただければと思います。

（山崎）（「オーストラリアで半年過ごして感じたこと」）私は2年生の秋（8月から2月）にオーストラリア・ブリスベンのクイーンズランド大学に留学してきました。この留学は愛大を通しての留学ではなく、自分で申し込んだ留学です。私は1年生の時に愛大のプランでカナダにも1ヶ月留学したのですが、その時に感じたことがあります。大学プランでの留学ということで日本人の友達がいっぱいいて、毎日日本語で話してしまい、また1ヶ月がすごく

短く感じ、わたし的に海外旅行の気分になってしまい、学ぶには時間が足りないと感じ、2年生の時にこの留学を決心しました。

最初は1人で行くことにすごく不安だったけれど、なんとか準備もギリギリ間に合い、1人で行くことができました。最初から飛行機が遅れてしまい、トラブルで大変だったり、現地に着いても誰も知り合いがいなく、頼れる人もいなくてどうしようかと思ったのですが、ホストファミリーも友人もみんな優しくてすぐに馴染むことができました。

クイーンズランド大学には日本人もいたのですが、私が行った8月は夏休みということで日本人も多くいたのですが、9月～1月までは日本人はいなく、中国人、韓国人、コロンビア人などインターナショナルの友達がたくさんでき、1人で行った甲斐があったなと思いました。ホストファミリーの子供たちがすごく可愛かったです。クラスのみみんなと鍋パーティーをしたときは、日本人は私以外いなかったのですが、たとえ出身国が違っても英語でつながれることにすごく感動しました。ハロウィンの時期には、タイと中国人の友達とゾンビメイクして遊びました。

1人で過ごすのだろうと思っていた20歳の誕生日には、学校の友達がサプライズしてくれて感動しました。またホストファミリーは、本当は自宅に友達を呼んではいけないのに、私の誕生日会を開くために呼んでくれてパーティーをしました。

1ヶ月間の休みがあったので、グレートバリアリーフやオペラハウス、メルボルン、ブリズベンフックに外国人の友達と行きました。日本ではできない経験ができたと思います。外国人との旅行はめったにできないと思うし、楽しいと思うことが多かったです。

ホストファミリーも本当に良い方々で、私は半年間お世話になりました。最初は辛いことがありました。私の部屋は虫だらけで、潔癖症で虫が苦手な私は、ホストマザーが良い人すぎてそのことが言えなくて、我慢して毎晩眠れず、日本の友達に電話してどうしようかと相談していました。ホストペアレンツは私の顔を見て「元気なさそうだけど大丈夫かい？」とすごく心配してくれて、居心地が悪い部分があることを伝えたらすごく謝ってくれて、翌日一緒

に部屋を掃除してくれました。私は自分の意見を言うことはすごく大事だと感じました。

日本人は謙遜など相手のことを考えて遠慮し、自分の意見を言えないことが多いけれど、海外ではそれは通用しないことがわかり、自分の意見をしっかり言うことが大切だと思いました。1人ぼっちで行った留学だったけれど、私自身成長できたと思うし、日本でも友人や先生など支えてくれて人がいたからこそここまでやってこれたと思いますし、現地でもたとえ1人で行ってもこれだけ友達ができ、楽しい毎日を過ごせたので、私は1人で留学してみることもお勧めします。

(山田) (「ニュージーランドへの留学」) 私は去年の3月～12月までの9ヶ月間、ニュージーランドへ留学していました。きっかけは私が高校生の時に会った友達でした。高校入学までは海外にまったく興味はありませんでしたが、その高校はニュージーランドに1年間留学する留学制度などが豊富なこともあり、海外に興味ある子がたくさんいました。

その海外に留学した友達から、留学中に色々な体験をしたこと、英語力がすごく身についたことなど様々な体験談を聞きました。それから何よりもその友達が以前と比べて人として成長していたことにとっても驚きました。また何人かの友達から留学体験談を聞きましたが、みんな口をそろえて本当に充実した時間が過ごせた。また絶対に留学したいと強く言っていました。私はどうしてそんなに充実できるのだろう、日本の生活と何がそんなに違うのだろうと疑問を持ち始めました。

それを機にテレビで海外番組などを見始め、そこに映る日本では見たことがないきれいな街並みや建造物、住民の生活を見て、こんな素敵な国へ行っているいろんなものをみたい、実際に現地の人と通訳なしで話してみたいと強く思うようになりました。そして帰国してからも英語の勉強が続けられることを考え、留学を決意しました。

[中略]

留学する前は初めての海外ということもあり、ニュージーランドへ行くことがとても楽しみで、早く行きたくて仕方がありませんでした。しかし、実際にニュージーランドへ着きホストファミリーに会いましたが、何を言ってい

るのか全く分からず、自分も言いたいことが思うように話せないという状況で、本当に心細く辛かったです。

私は語学学校へ通っていたのですが、初めて行った日には、そこで数人の日本人に合うことができ少しホッとしました。そしてクラスには韓国人、ベトナム人、ドイツ人などいろんな国の生徒がいましたが、みんな心優しくフレンドリーですぐに打ち解けました。先生も面白く、授業中に歌を唄ったりゲームをしたり、パーティーをしたりと授業でとても楽しい英語を学ぶことができました。休日にはクラスの友達と海でバーベキューをしたり、丘に登ったりしました。

留学生活の中では、毎週誰かが入学したり卒業したりするのですが、クラスメイトが卒業した時にクラスのみんで卒業パーティーをやろうと企画し、食べ物を持ち寄って、パーティーをしました。また、授業は午前と午後に分かれていて、6週間でクラスが変わります。基本的には先生が変わるのですが、先生の最後の授業の時には、午後の授業を使ってみんなでお菓子パーティーを開きました。

学校の幹旋で体験できる乗馬体験では、大きい丘を馬に乗ってのぼり綺麗な景色をみたりし、4月最終週のイースターでは、学校でイースターにまつわるゲームをし、その景品でイースターチョコをもらい、クラスのみんで記念写真を撮りました。休日に友達と登った丘から見た海がすごくきれいに見えて、本当に自然がきれいなニュージーランドで印象的でした。

英語の方も前半は宿題の後に毎日英語で日記を書いたり、文法のワークを解いたり、自分専用の単語帳を作って英語の基礎を徹底的に身につけていました。後半はTOEICのコースを取ったり、問題集を解いたりTOEIC中心の勉強を行いました。こうしていくうちに英語もだんだんと身につけ、ニュージーランドの生活もすっかり慣れ、1人でどこへでも行けるようになったり、自分のやりたいことが自分でできるようになったり、だんだんと留学生活を楽しめるようになっていきました。

留学するという事は、日本では何不自由なくできていたことも海外ではまったく通じないので、今まで体験したことのないような苦勞もたくさんありました。しかし、そのおかげで成長したことや気づかされたこともたくさん

ありました。それは現地で世界各国のいろんな人と出会ったからこそ学べたことだと思います。いろんな人に助けられたり、その国の価値観や考え方の違いには驚いたりしたこともありますが、それで私自身も変わることができました。

そして、帰国してからは留学した友達が話していた「充実した時間を過ごせた」という意味がようやく理解できました。留学してすぐ大変だった時があったからこそ、自分で何でもできるようになった喜びや、友達と一緒に遊んだ時の楽しさが増すのだと気づきました。今少しでも留学を考えている方がいるのなら、ぜひその気持ちを無駄にしないで学生のうちに留学に行っていきたいと思っています。

(稲生) (「まさかの中国に留学して」) まず初めに話したことは、私が思うに中国は西洋ヨーロッパやアメリカとくに留学した方とは違う体験ができます。違う体験とは、中国人と日本人は、見た目は同じだけれど、行動や考え方が時としてすごく違ったりしてカルチャーショックを受けたり、中国は大陸なので国土の広いダイナミックさとか、多民族国家なのでいろんな人がいたり、日本の人口と比べると10倍も多い世界一の人口の中で、もみくちゃにされるのが中国留学の大きな特徴だと思います。

それなので学ぶことも先進国的な素晴らしいところもありますが、結構目につくのは、どちらかという(列に)並ばないとか、私にとって面白いと思うところも学べるのが中国・大陸の留学の醍醐味だと思います。

私は交換留学生として行ったので、まず募集がかかった10月に申しました。交換留学生の良いところは、愛知大学から半年で20万円、1年で40万円の返済不要の給付型奨学金がもらえるところが1番大きな利点で、次に提携校なので色々な連絡がしやすいところがあります。

交換留学生のテストは全学部の学生が受けてもいいので、現代中国学部の方もいるのですが、彼らは半年前に現地調査ということで4ヶ月間現地に住んでいるので、面接などがとても上手です。けれどそういう部分は考慮されるので、筆記試験と面接試験も中国人と日本人の先生に相談をして試験対策をすれば、交換留学生の試験は通るので大丈夫だと思います。

12月から留学が認定され、徐々に渡航の準備を始めるの

ですが、医療センターへ行ったり保険に加入したり、入学証明書が届いたら中国領事館にビザを取りに行ったりしました。

渡航の時は旅行会社を通じて、飛行機とホテルを手配してもらいました。

通常の授業は、午前中2時間の授業が週4日あるだけで午後の授業はないので、時間がたくさんあるため、遊ぶ人は遊ぶ、勉強する人は勉強するという感じで個人的に分かれていたと思います。

(川口) (「謝謝臺灣、ありがとう台湾」) 私は学校の試験を受け、交換留学生として台湾へ行きました。もともと第2言語として学び始めた中国語の勉強が楽しくて、1年生の頃からランゲージセンターや Language Café へ通い、みんなや先生と中国語で話をしたり、センター内の資料を借りて検定などの勉強をして、自分なりに力を入れて勉強をしていました。

たまたま読んだ本がきっかけで台湾の歴史や文化に興味をもつようになり、2年生の夏休みにも短期留学を個人でしたのだけれど、もっと知りたいという思いから学校の交換留学に応募をして台湾へ行きました。2年生の秋に試験を受け、2年生の2月(2014年2月)から行き、今年の1月(2015年1月)終わりに帰国しました。

[中略]

また私も交換留学で行ったのですが、語学の授業時間数が少なく、2期にわたって自費で別の語学学校に通っていました。午前中は語学学校へ通い、午後から交換留学先の授業を受けていたので、結構忙しかったです。

私が留学した東呉大学の交換留学生は、履修科目に制限がなくどの学部の授業も履修が可能です。私は日本語日本文学専攻であるので、単位交換を考慮して日本語学科の授業を中心に履修しました。先生は日本人の方で生徒は全員台湾人です。日本語学科のみんなとは台北の三菱東京UFJ銀行の支店へ社会見学に行きました。また何でも履修して良かったので、サッカーの授業も履修していました。中国語でサッカーの授業を受けて、本当に貴重な経験ができました。

翻訳や通訳の授業では日本語と中国語の違いを意識する力がつき、中国語を勉強する上でとても役立ちました。

一緒に発表をしたり、言語を互いに教えあったりしていくうちにたくさんの友達ができ、授業後も一緒に勉強をしたり、ご飯を食べたりとても充実したキャンパスライフを送っていました。

寮も台湾人の学生との8人部屋に住んでいたのも、絶えず中国語を聞いて話す生活で中国語が飛躍的に伸びました。一年間台湾人の学生と生活や学校生活を共にし、時にはぶつかり、喧嘩もして理解を深め合い、かけがえのない絆を築くことができました。台湾の人はどんな時も好意をもって助けてくれる親切な人が多いです。留学中たくさんの困難にぶつかりましたが、クラスメイト、友達、ルームメイト、周りの人の助けがあって乗り越えることができました。とても感謝しています。

[中略]

また、台湾は本当に日本人の観光客が多いので、日本人観光客がよく訪れる茶芸館というお店で通訳のお手伝いをしていました。4ヶ月間にわたる芸術祭では運営ボランティアにも参加しました。100人位の台湾人の中に日本人は1人という環境で、言語の面では苦労した点もありましたが、4ヶ月間一緒に仕事をして台湾人のこともよく知れましたし、すごく貴重な経験ができました。そして、旅行もたくさん行きました。

日本という国にも様々な人がいて様々な世界があるように、海外でもたくさんの人と関わってたくさんの世界を知ることが大切だと思います。勇気をもって様々な世界へ飛び込み、たくさんの人と交流して揉まれて、刺激を受け、人として成長することができた自分でも実感しています。またその中で中国語能力も高めることができ、帰国後には目標であったHSK6級、中国語検定2級を取得し、中国語のレベルアップ、台湾の理解を深めるという目標を無事に達成でき、とても良い留学でした。

(杉田) (「フランスでの大学生活」) 僕は2年生から3年生にかけて1年間フランスのオルレアン大学へ留学していました。

上海、台湾の2名と同じ交換留学なので、選抜試験を受けましたが、2年生から行く場合はその試験が1年生の10月頃になるので、早めの準備が必要になりました。

交換留学生は大学付属の語学学校に入るのですが、その

クラスにはフランス人はいなくて、いろんな国からの留学生が集まってクラスを作りました。僕のクラスは、中国・韓国・ロシア・インド・バングラディッシュ・アメリカ・ボリビアからの留学生がいました。日本からの留学生が一番年下くらいで、他の国の人たちは30代や40代くらいの留学生がいました。

授業に関しては、会話中心の授業がほとんどだったのが印象に残っています。多くの授業で先生と学生、学生同士が話し合いながら授業を進めていきます。発言を求められることも多いのですが、初めの数週間はほとんど聞き取ることができず苦労しました。授業ではよく環境問題や雇用問題など色々なテーマを扱ったディベートを行うのですが、国によって考え方が違うのだなと面白いと思いました。このような授業内容が多かったのも、語学力はもちろん自分の意見を言ったり意見交換したりという力がよく身につきました。

クラスにもよりますが、授業内容が結構難しいため、予習復習にかなり多くの時間を取らないといけないのですが、授業が週3日と半日だけなので休みが多く自由な時間を取ることができます。それ以外にも2週間程度の長期休暇を結構とることができます。

またオルレアン大学にはクラブ活動が充実していて留学生も参加ができました。文化系では演劇や映画を見るサークルがあり、僕の友人が演劇部に所属していたのですが、喋り方や発音がとても勉強になったと話していました。演劇部は留学生にとっても人気があり、たくさんの留学生が所属しています。演劇は他のサークルと少し異なり、ここに所属すると大学の単位が取得できるため、所属して単位を稼ぐ人もいました。スポーツ系のサークルも充実していてそちらにはフランス人の人が多く入っているのも語学力も高められると思います。大学だけだと現地のフランス人と関わることはほとんどないので、サークルに入って仲良くなると良いと思います。

遠足は5回以上あり、行先はお城や美術館、国会議事堂などへ行き、パリを回ったりもしました。自由時間がたくさんあるので旅行にもたくさん行けます。

日本から来ていた人たちは、留学中に旅行をたくさんしたことをキッカケに旅行にはまりバックパッカーになり

世界中を回っている人もいました。

今回の留学では大学の授業だけではなく休暇中の活動で多くのことを学びました。旅行に行ったりお店の手伝いをする機会もあったりと、いろんな面で成長できたと思います。フランスに留学したいと思っている人は、こういう長い休暇を利用して大学だけではなくいろんなことに挑戦してみてください。

～第2部～

(中尾) まず、いつごろに留学を思いつきましたか？

(山崎) 大学に入学したころからです。1年生でカナダに1ヶ月行った時は、大学からお知らせがきて、それでいつもメールチェックをして情報を集め、集まりにも参加をして、海外に行ったのは2月、3月だったのですが、その時は8月にはメールで参加募集の申し込みがきていました。今回の個人留学では出国が8月だったので4～5月から準備をしましたが、それでもぎりぎりでした。

(山田) 私は、出発は3月でしたが、前年の8月頃から色々準備を始めました。私は結構余裕をもって始めたのですが、留学ジャーナルの方は短くても半年あれば十分だと話していました。

(中尾) お二人は愛知大学と関係があつての留学ではないですが、それでもやはりその位かかるわけですね。中国、フランスの方は愛知大学の試験を通過して行ったというわけなので、トータルではどのくらい前から準備期間が必要でしたか？

(稲生) 1年生の時に初めて中国語学び、夏休みの時に2年生になったら中国留学に行きたいと思い、ゼミの先生に相談したところ「君の発音では通じないだろうし、基礎をもう一度日本で勉強し直し、3年生で行くように準備した方が良い」といわれ、2年生の10月に試験を受けられるように準備をしました。

(中尾) 2年生の10月に試験を受け、すぐ2月に行けたということはとても迅速ですね。愛知大学の対応もビザ等の手配もスムーズに進んだわけですね。そのような場合は数ヵ月前に準備すれば間に合いますね。3年生の1年間を留学していたのですね。

(川口) 私も大学に入って中国語を勉強し始めて、本当に中国語が楽しくてすぐにでも留学したくなりました。1年

生のときに反対されたけれど、(交換留学の)試験を受けましたが結果はダメで、そこから検定を受けたりし、2年生の夏に自分で短期留学を経験し、やはりどうしても行きたい気持ちがあり、2年生で再度(交換留学の)試験を受け、合格しました。

(中尾) 中国はうまくいっていますね。2年生で交換留学試験を受けて3生で行けたわけだから。

(川口) けれど、今は就職活動で苦労しています。

(中尾) 帰国はいつごろでしたか？

(川口) 2015年1月の終わりごろに帰国して、就職活動が3月から始まったので、今も少しバタバタしています。語学もしっかり留学で高め、就職活動もゆっくり行いたいという方は休学もお勧めします。

(中尾) 英語圏の方はいつからでしたか？

(山崎) 2年生の8月から。

(山田) 2年生の春からです。

(中尾) 山田さんは短大だから就職活動にかかってしまいますね。

(山田) 私は去年、2年生を1年間まるっきり休学していました。

(中尾) それだといいですね。フランスの杉田君は、フランスは準備を始めなければいけない時期が早く、9月、10月から留学なのに、その前の年のいつ頃でしたか？

(杉田) テストは11月頃、発表は翌年1月でした。

(中尾) そこから待って、待って9月に出発ですね。もう少し早くしてくれればいいけれど、フランス政府のビザの発行の遅さや受け入れの問題とかがあったのでしょうか。つまり早くから準備していくことが良いということですね。

また、聞いていると(日本で)授業を受けて面白いから行きたくなくなったと言う方がいたけれど、それはどういったところが面白かったですか？

(川口) 高校生のころは英語が苦手で、外国語にも全然興味がなく、それで日本語専攻に入りました。こんな風になるつもりはなかったのですが、中国語は英語にはない発音の響きとかアルファベットではなく漢字表記という点で入りやすかったのかもしれませんが、本当に楽しくて。

(中尾) さきほど、(中国語圏への)留学は少し伸ばした

方が良いと言っていたけれど、それはどういう意味ですか？中国語はすぐに行っても仕方がなく、日本で基礎をしっかり身につけた方がいいのですか？

(川口) そうですね。基礎がない状態で行っても、向こうで学べるのが少なくなってしまう。せっかく中国に行ったのにそこで文法の基礎から学んでいたら、日本でもできることを勉強してしまうので、ある程度基礎を作って、中国でしかできない人とのコミュニケーションの中で学んでいくことができます。

(中尾) つまり協定留学生には、その程度のレベルが求められるということですね？英語圏はどうですか？中学から英語を学んできて、留学は早い方が良いと思いますか？

(山崎) 私は昔から英語が好きで得意な教科だったので、大学でも英語（欧米言語）をとれる現代国際英語専攻なんですけれど、私は文法よりスピーキング力を高めたいということもあって留学をしました。スピーキング力は、日本人は他の国に比べ劣っている感じがしました。

(中尾) 確か山田さんもスピーキング力をつけたいと話していましたね？結構英語はずっと学んできているので、こうした力に重点を置いて頑張りたいというものがあるのでしょうか。杉田君は早く準備したのはどうしてですか？1年生のころはまだ始まってばかりだけれど。

(杉田) 留学を知ったのは1年生の春学期で、そしてテストが11月頃にあることを聞いて、夏休みにすごい勉強して、急いでフランス語検定を受けて準備をしました。

(中尾) 1年遅れると、もう3年生から4年生にかかってしまいますよね。ちょっと制度が可哀相なところがフランスにはあります。皆さんそうやって準備を始めたわけですが、準備中に1番考えたこと困ったことはなんですか？マテリアルなことでも何もかも最初は分からなくてどうしたらいいのかとか。すでに1ヶ月行っていればそんなに気にしなくてもいいのかな？

(山崎) 1ヶ月行ったときは、大学が全て手配してくれたので、自分では何も用意はしなかったのですが、今回は学生ビザの用意とか、(体調に)異常があってはいけないので健康診断は絶対に受けなければいけなくて。

(中尾) それは全部自分で行ったわけですね？

(山崎) いえ、先生に協力してもらいました。

(中尾) 山田さんは、そのあたりはどのようにしたのですか？

(山田) 私は留学ジャーナルが全部行ってくれました。アフターケアも色々してくれたので、すごく良かったです。

(中尾) 少し込み入ったことを聞きますが、そういったことを留学ジャーナルが行ってくれると、値段とか上がりませんか？

(山田) 一応手数料や利用料みたいなものはあるのですが、初めての海外だったので、もし不備があって突然いけなくなったことが発覚したと思うと不安ですし、それにアフターケアもちゃんとしてくれて、また、その現地スタッフがみんな留学経験者の方ばかりだったので、ニュージーランドのことも大体知っていたので、すごく良かったです。

(中尾) そういった色んな細かな具体的なことが中国だと、協定で行くとなると国際交流が行ってくれるのですか？

(川口) そんなに手厚いものではなくて、結構ぎりぎりだったので、急いで健康診断を受けたり空港チケットを取ったりしました。

(稲生) 上海は便がガラガラなので、いつでもチケットは取れたのですが、台湾は結構大変だったと聞きました。

(川口) 最初の手続きの時に保険に入ると言われました。保険が20万円くらいして結構お金がかかるのに、いきなりもう用意してといわれ、お金の面で予想外に出費がかさんで、親にお願いをしたりして、そういう面で私は苦労しました。

(中尾) お金のことを聞いて申し訳ないのですが、大体、予想していくら位かかるか最初から分かっていましたか？国際交流のほうで教えてくれるのですか？中国のお二人を見ていると大体150万円くらいですかね？

(川口) 大体は分かっていたのですが、航空チケットや保険やビザを取るために大阪へ行ったりして、そういう小さな出費とかで留学ってこんなにお金かかるんだなと思いました。

(中尾) 英語圏はとても高い印象を受けたのですが・・・？半年で200万。1年で400万。そんなにかかるのですか？

(山田) ニュージーランドは物価が高くて、生活費が1ヶ月で大体5万円くらいかかるので、そこが結構大きかったですね。

(中尾) 計画している人はそれなりに覚悟していないといけないですね。認定留学だと補助が出る？

(山崎) 教務課で提出をして教授会を通れば、認定留学だと認められます。この個人留学が愛大の1セメの留学と同じ扱いで、向こうで学んだ授業を日本に帰ってきたときに専攻の単位に認定させることができるし、奨励金も出て、学費は半額でいいです。

(中尾) 利点も結構ありますね。費用という点では、協定はさらにお得になりますね。ヨーロッパに目を向けると、杉田君はアンケートにアバウトに100万円とありましたが、150万円くらいですね。フランスは留学費用が安いのですね。豊橋で下宿して愛知大学へ通っていることを考えれば、どちらが安いかわからないくらいですね。

さて、そうやって準備して向こうへさっと入って、最初にどのような印象をもちました？

(山崎) どうでしょう。

(山田) 最初は何がなんだかわからないくらい、ぜんぜん生活に慣れなくて、生活にするのが毎日毎日必死でした。

(中尾) 最初のころは、言葉は頭に入ってきていましたか？

(山崎) 私は普通に話せました。専攻コースも英語なので。

(中尾) なるほど。前に短期で行っているし、英語専攻ということがあるからですね。そういうある程度ベースができて人には大丈夫だけれど、そうじゃない人には大変なのですね。中国語は大学入ってから始めるわけだから、一応基礎を頑張った行っても最初はかなり大変だったんじゃないですか？

(稲生) 発音が通じない上に上海の人は南方のなまりの人が多いため、その法則を理解するまではぜんぜん伝わらなくて、また中国の人は無視をしたりするので、ちょっと傷ついたりしました。

(中尾) 上海の人は普通に話してはくれないのですか？

(稲生) 人にもよります。普通語はだいたい通じるのですが、おばあちゃんくらいになると何を言っているのかぜんぜん分かりません。

(川口) 言語というより私は8人部屋の生活とかが大変でした。学校も交換留学なんですけど、結構向こうの人はゆっくりしていてあまり焦らず、手続きとかも着いてからも

全然説明がなくて不安だし、8人部屋に押し込まれて……。言語もそうですけど、そういうことでストレスもたまって、最初は生活に慣れるのに苦労しました。

(中尾) 杉田君は最初もぜんぜん分からなかったと言っていましたね。

(杉田) はい。ぜんぜん分かりませんでした。意外とみなさん優しいなあと思いました。

(中尾) いま8人部屋と出たので聞きますが、みなさんホームステイですか？

(山崎) はい。

(山田) はい。

(稲生) 寮で2人部屋でした。

(川口) 8人部屋です。

(杉田) 1人部屋です。

(中尾) どうですか？どれが1番ストレスが少ないですか？ホームステイはどうですか？

(山崎) ホームステイは、私は当たりでした。やっぱりハズレもあります。

(中尾) なるほど。つまり、どういうホストファミリーに入るかによって、当たりハズレがあるということですね。

(山田) 洗濯とか自分でやるところもあれば、やってもらえるところもあり、私はしてもらえました。やっぱりホストファミリーに色々と気を使うので、勝手にキッチンを使えなかったり。そう考えるとどっちもどっちかなと。

(中尾) 気を使うという点は、最初にお話していただいた部屋が汚いから何とかしてほしいと言いくかったことと通じるような気がします。でも言いたいことは言わないといけないけれど、駄目なものは駄目。そこは大変だったと思います。

ホストファミリーだと人間関係が関わってきますね。寮ではどうでしたか？杉田君は1人(部屋)だったと思いますが、他の人たちとはぜんぜん交流はなかったのですか？

(杉田) 交流はありました。キッチンだけは共同だったので。それで夜中は結構うるさかったりしました。

(中尾) 台湾のように8人部屋だと8人の中にもうさいるとかいるんじゃないですか？

(川口) 8人部屋なので、朝から8人の目覚まし鳴ったり、自分が勉強したくてもみんながおしゃべりしていたり

とか。そういう時は図書館を利用していました。また8人部屋でたくさんの部屋がある中で、みんなお風呂が共同なので、みんな並んだり朝は洗面所が空いていなかったり合宿生活みたいな感じです。でも本当に現地の人に溶け込めたなあ、現地の大学生を同じことができたなあと思います。

(中尾) 稲生さんは2人部屋ですが、相手は日本人ですか？それとも中国の方ですか？

(稲生) 前期はカザフスタン人(中央アジアの国)と一緒に住んで共同でキッチンも作ったのですが、イスラム圏なので彼女は豚肉が食べられず、ちょっとした文化の違いもあって、後期は日本人だったので、特に何もありませんでした。

(中尾) なるほど。貴重な体験でしたね。

(稲生) そうですね。たぶん日本にいたら会うこともないだろうなという国の人なので。

(中尾) そういうところで生まれた交流。ホームステイの方はホストファミリーとの交流、8人部屋や相手がいる場合は交流ができるから、やっぱり1人部屋は寂しいですね。

(杉田) はい。でもお互い部屋に遊びに行ったりしたので、交流はできました。

(中尾) それでは授業のことについてまとめてお聞きします。みなさん、「満足だった」「おおむね良好だった」とおっしゃっていましたが、また、一番びっくりしたのが川口さんは大学の他に他の語学学校へ行っていたということですが、このあたりはどうですか？

(川口) 私の交換留学先は中国語の授業が、みんな言語を勉強しにきているのに、週1しかなくて、そこで他の日本人の交換留学生の子も、1年中ではなく1学期くらいは自分でお金を払い通いました。

(中尾) それは結構高いのですか？

(川口) 日本円で10万円くらいです。3ヶ月で10万円です。私は2回(2学期)通ったので、20万円くらいです。

(中尾) 3ヶ月で10万円ならば英語圏の学費を考えればぜんぜん問題はないですね。

(川口) そこは授業が毎日あったので、言語はそこで学びました。

(中尾) 英語圏の集中の授業というのはやはり、それなりに愛知大学にいたのでは受けられない授業だったと思

います。何が一番印象に残っていますか？どういった授業が？

(山崎) グループワークが多くて、絶対に自分の意見を言わなくてはいけない。

(中尾) 自分の意見を言う授業が多いという発表の形のタイプの授業が多いのはいい点ですね。山田さんはどうでした？

(山田) 私は(発表形式の授業は)そんなになかったです。先生によって授業のスタイルが違って、午前中はグラマー中心だったり、結構話すことを主体とする授業が多かったです。先生がテーマを決めて、それについて2~3人でずっと話している感じの授業です。午後も一応はあったのですが、本当に自由で、先生や生徒がひたすら話している授業もあれば、ゲームをする授業も色々ありました。

(中尾) 1クラスの人数は少ないのですか？

(山田) 多くて15人くらいです。それでもクラスは人ぞぎゅうぎゅうでした。

(山崎) 私は16人くらいでした。

(稲生) 20人くらいです。

(中尾) 中国はすこし多いですね。英語圏の授業のような意見の発表とかはありましたか？

(稲生) はい。発表はありました。ディベートもありました。基本的な授業はライティング、リーディング、ディスカッション、資料を見たりとか(英語圏と)大体同じで。

(中尾) 川口さんは語学学校ではどんな授業を？

(川口) 皆さんと同じで、私のクラスは7人くらいなので、話す機会がたくさんあり先生も「どう？」と聞いてきてくれるので、そこでそういう力(スピーキング力)がつかしました。

(中尾) 杉田君はどうでしたか？

(杉田) 僕も皆さんと同じでディスカッションや発表が多かったです。発表はクラスの前で1ヶ月に1回、自分で調べたことを発表する機会がありました。あとは寸劇をよくやらされました。

(中尾) お芝居ですか。教育の中にお芝居やシャンソンの授業も入ってくるんですね。愛知大学ではシャンソンはあるかもしれませんが、お芝居をやったりするクラスはないので、できない経験ができて良かったんじゃないかと思

ます。

休日は皆さん色々と旅行などされて楽しかったみたいですが、それだけアクティブにやって疲れとかはなかったですか？大丈夫でしたか？オーストラリアへの旅行は主に東海岸ですか？学校の友達と旅行に？

(山崎) そうです。バスに乗るのもバスカードあって、土日だけ無料になるんです。

(中尾) 学生のためのさまざまな割引ですか？

(山崎) 9回乗ると10回目が無料になり、また9回乗ると10回目が無料になる制度です。それなので、うまく使って土日が無料になるようにしました。

(中尾) 自然がとっても美しくて豪快ですね。ニュージーランドも非常にきれいですよね。あいうところに休日はクラスメイトと出かけていたのですか？

(山田) せっかくニュージーランドに来たので、いろんな所に行こうと、友達も結構暇だったりで、誘って行きました。また、学校の斡旋でプチ旅行や1泊2日など色々な旅行に結構安く行けたので、そちらを利用する人もいました。

(中尾) なるほど。いいですね、それは。日本で外国人向けに京都のツアーを組むようなものですね。上海や北京は自分で行ったのですか？大学の企画はないのですか？

(稲生) はい。自分で行きました。大学のもありましたが、遠足先の蘇州はかなり近く30分くらいで行けるような場所ばかりでした。どこかへ行ったりするのは、刺激を求めて本当の中国の現地はどんなものなのかと行ってみたいと思いました。

(中尾) 面白そうですね。中国というと大きい国だし、いろんな知らない町がありそうで…。台湾は美味しいものがたくさんあったみたいですね。

(川口) そういうところは学校の近くにもあったので、平日も休日も授業が終わったりすると近くの観光地へ行って遊んだり、長い休日には友達と南部の海の方へ行ったりしていました。1年を通してほとんど台湾を1周できたかなと思います。小さい国だから。

(中尾) 杉田君はいろんなところに旅行している人に会ったと言いましたが、以前オルレアンに留学していた子から、「今マドリードに来ていて泥棒にあっちゃって大変」とい

う電話を受けたことがあったけれど、ヨーロッパは結構怖いところもあるから、なにもなくて(危ない目にあわなくて)良かったですね。

(杉田) 僕のクラスメイトからはそういう話は聞きませんでした。

(中尾) みなさん治安は良かったようですが、帰国してどんなことを今、感じていますか？

(山崎) 私が留学していた時は、英語を話せるようになりたかったから自分で日本語をシャットダウンして英語ばかり話していたけれど、帰ってきたらやはり英語を話す機会が少なくなってきた、英語力が下がってきちゃうんじゃないかと。

(中尾) なるほど。そういう心配がありますか。それではみなさん、その(話題に入る)前に、実際に語学力はどれくらいアップしたのですか？それがとても知りたいです。ここは語研ですから。語研だからそのあたりは知りたいのです。

(山崎) まだTOEICやTOEFLとかは受けていないのですが、伸びたなと思うところは洋画が全部見られるようになったりしました。

(中尾) 聞き取りがかなりできるようになったんですね。6か月くらいで聞き取りが1つブレイクしますね。確かにそうだと思います。

(山田) 飛躍的という感じではないですが、高校2年生の時に英検準2級を取って、帰国してから2級に受かりました。

(中尾) ランク的に1つ上がったということですね。

(稲生) 検定的にいうと、私は行く前は中国語検定3級に落ちているんですが、帰るまでに検定試験は異なりますが、HSK5級に合格できて、5級を取っていれば日常会話には問題ないくらいになり、実際に自分の話す内容でいたい伝わると思います。

(中尾) 語学検定的には2段階くらい上がったということですね。だいたいどの国でも1年行くと2段階くらい上がるということですね。ちゃんと効果は上げているんですね？

(稲生) はい。そうだと思います。

(川口) 私は中国語検定3級を持って行って、帰ってきて

から HSK6 級を受けて一応合格点に達していたので、中国語検定の 1 番上のレベルには合格できています。

(中尾) かなり頑張ったということですね。

(川口) ですが、私は本当に机での勉強が苦手なので、先ほども言ったように人との交流の中で学んだという感じですか。

(中尾) それは良いですね。杉田君は？

(杉田) 僕も行ったときは、会話は全然成り立たなかったのですが、帰ってくるころには日常会話くらいは難なくできるくらいでした。

(中尾) 普通に自立できてきて、何でもできるくらいなのですね。結構みなさん満足されているようですが、いま聞いたところだとやはりこの後どうなるんだろうと不安ですか？

(山崎) そうですね。

(中尾) やはり維持は難しい？

(山崎) 日常の友達との会話は日本語で話をするので心配はありますが、家ではなるべく外国の友達と連絡を取ったり、電話をしたりして英語を話しています。

(中尾) 山田さんはそういった不安はありますか？

(山田) あります。やはり日本で日本人が英語を話すと、ちょっと変ってという感じがあるので、そういう見方とか、逆に日本に帰ってきてカルチャーショックだったのがあって、ニュージーランドの人は誰とでもフレンドリーで気さくなのですが、日本人は冷たいというか…。そういうのをみて悲しいなと思いました。

(中尾) 中国のお二人はどうですか？今逆カルチャーショックがあると聞きましたが。

(稲生) カルチャーショックはあります。良い面も悪い面もあるのですが、悪い面でいうと、電車の中で電話していると叱る人がいて、「なんであんなに怒るんだろう」とか思ったりします。

(中尾) 中国の人の方がもう少し寛容であるとか？

(稲生) そうですね。怒りはしないです。でも、怒るときは怒るけれど、マナー面ではぐちゃぐちゃな分、怒らないというか。

(中尾) 日本の厳格なマナーがちょっと堅苦しく思えるようになったと？

(稲生) ちょっと（思えるように）。

(中尾) 川口さんはどうですか？逆カルチャーショック。

(川口) 私も暖かい国で開放的な気分になって帰ってきたので、就職活動で苦労してます。それなのでちょっと堅苦しい世界に入って「はあ〜」と思いながら毎日過ごしています。

(中尾) 杉田君はどうですか？

(杉田) 僕もありました。行く前は日本が最高だと思ったのですが、「そうじゃない」と色々行って分かりました。

(中尾) フランスの良い面もみつけたということですね。いま皆さんが言っているのは、帰ってきてから逆カルチャーショックがあったと言っているけど、それはどうですか？

(杉田) 日本人は親切だと言われるけれど、それはどうかなあ…と思いました。外国の人の方が親切な時もあるかなあと。

(川口) (外国と日本では) 親切の種類が違う。

(中尾) そうですね。山田さんがフレンドリーって言った親しみやすさのようなものが (外国には) ある。

(山田) ニュージーランドの人は、困っている人がいるとすぐに声をかけて助けてくれるけど、日本人は結構困っている人がいても無視する人をよく目にします。

(中尾) (日本人は) 礼儀正しいけれど、いざという時に、なんか冷たいという感じがあるかもしれませんね。中国はその点どうですか？

(稲生) 優しいところは優しくて、距離がどんどん近くなってくるのが目に見えて分かって、愛情表現も分かりやすいです。そう思うと、日本人の方が確かに、中国人の友達がよく「分かりにくい」って言っているのですが、確かにと思います。

(中尾) そういう同じような、中国の人が日本人について抱く想いが、帰ってくると少し分かるのね。

(稲生) はい。少し。

(中尾) それでは皆さん留学を勧める良い経験をしてきているので、一言ずつ「こういうことだからぜひ皆さんも」っていうのがありましたらお願いします。

(山崎) 英語力だけでなく、自分の努力や自分自身の成長にもなるので、英語を学ぶだけではなくて海外へ行って、

もっと視野を広げて自分の知らなかったことも知って、価値観も変わって広い視野で世界を見るようになると思うので、私は留学を勧めます。ぜひ経験してみてください。

(山田) 留学行きたいと思ってもお金の面もあつたりして、なかなか行けないと思うんです。留学は一見、英語力がつく感じに思うけれど、行くと世界が180度違うので、自分の考え方も価値観も通用しないことが多くて、そこで苦労もするけれど、帰ってきてから自分の中で成長したなど思えるのがすごく実感できます。それを実感できるのは、やはり自分自身なので、ぜひ体験してほしいなと思います。社会人になっていくと、仕事を辞めてからじゃないと行けないと思うけれど、やはり学生なら長期休暇の夏休みを使ったり、休学という手もあるので、それを利用して行って、帰ってきてからも英検やTOEICの勉強はできるので、ぜひ学生のうちに留学できたらしてほしいなと思います。

(稲生) 中国という国は、メディアとかでもあまり良いことを言わないので日本にいたらイメージがあまり良くないと思います。でも行って見て、見えにくくなっている部分も中国にあって、もちろん良いところもたくさんあるので、体験してみたりとか、ちょっとダイナミックな国なので、勢いがあるところは日本では体験できないので、ぜひ行ってみたら良いと思います。

(川口) たぶんどどの国に留学されてもそうだと思うのですが、旅行で行くのと留学では、全然違うんですね。旅行で行くと「うわあ〜！きれいなだな。楽しいなあ！」と思いき、留学だと嫌なところや、「なんでこうなんだろう？」と思うことがいっぱいあって、そういう経験は留学でしかできないと思うし、時間のある大学生の時期しかできないと思うので、時間とかお金とかあればぜひ行ってほしいと思います。

(杉田) 24時間、外国語に触れられるのは、日本ではできないことだと思うので、留学先の国のことだけじゃなくて、他の国から来ている留学生のクラスメイトとも知り合っていて、いろんな国のことも知る事ができて、すごく視野が広がったと思います。留学して逆に日本の良さも他の国をみてよく分かりました。なので、時間のある学生の内に行けたら良いと思います。

(中尾) フロアの方からもぜひ、この機会に聞きたいこと

があればお願いします。

(フロア1) 私はずっと留学がしくて、高校2年生の時から大学生になったら留学しようと思っていたのですが、1年生の時はとりあえず無理かなって、2年生から留学するのが1番ベストなのかなと今日聞いていて思ったんですが、どうしたらいいですか？

(中尾) 2年生から行かれるんですか？何語を？

(フロア1) まだ迷っているのです。いま英語とフランス語を勉強していて、またフランスに行きたいなと思ってるんですが、やっぱり英語も大事だからと思って、カナダを視野に。

(中尾) そうですね。過去に1年間カナダに留学して、帰ってきたその年か翌年にすぐ試験を受けてオルレアンに行って、2回留学した学生がいたけれど、結局4年では卒業できなくて、5年間くらいかかりましたね。今回は誰もいなかったけれど、協定留学は英語にもありまよね？それはいつごろから準備すれば大丈夫ですか？

(山崎) カナダが1セメであるのと、秋にイギリスとアメリカがあります。

(中尾) ではそれを受けて行けば、行けますね。そういう方法もありますし、山崎さんみたいに自分で調べて認定留学というのも良いんじゃないですか。

(フロア2) 休日をつかって旅行へ行っていたと思うんですが、それも自分が思っていたのとは違う、思わぬ出費だったと思いますが、その辺考えてお金とか用意しましたか？

(川口) 物価が日本より安い国なので、電車賃とかも近場なら50円か100円くらいです。なので、旅行ですごい出費になったなというのはなかったです。

(中尾) それくらいならいいですね。物価の高い国はどうですか？

(山崎) オーストラリアは、特別に学生ビザでも働くことができるので、バイトという形で授業後にバイトをして稼いでいました。

(中尾) そういう手がありますか。フランスはどうですか？

(杉田) フランスでもバイトしている人もいました。僕は費用を自分で用意していったのですが、途中で足らなくな

ってしまって、旅行とかに行けなくなっていました。

(中尾) それは残念でしたね。やはりちゃんと考えに入れておかないといけないということですね。学生割引はどこ国でもかなりあるみたいと感じたけれど、10回目は無料みたいな。

(山崎) 学生だけじゃなくて、みんなです。

(中尾) ヨーロッパだと年齢割引があって、26歳以下だとたいい安くなりますね。

(フロア3) 現地の国の言葉の夢を見ますか？

(川口) お酒を飲んだ時とか。

(稲生) 寝ぼけてる時とか。

(フロア4) 稲生さんと一緒に地域政策学部の学生が北京に留学しましたが、その学生さんとはよく連絡取りましたか？

(稲生) はい。ときどき取っていました。北京に行ったときにあたり、彼女が上海に来た時にも会ったりしました。

(フロア4) そうですか。良かったですね。今日は座談会のパネリストに人数制限があって来てもらえなかったのですが、安心しました。

(中尾) 向こうで一緒になると、共通のことがたくさんあって盛り上がるかもしれませんね。

(フロア5) 1年留学したい気持ちはあるんですが、やはり留年というのには抵抗があるのですが、留年された方はいらっしゃいますか？

(稲生) 留年はします。

(山崎) 留年はしていません。

(中尾) 協定や認定で、(取得した単位を卒業単位に)うまく組み込めば留年しないのでは。

(山崎) 私は現代国際英語専攻なので、なるべくいま自分が留学している時に取るであろう似ている授業を取って認定させました。

(中尾) 1年で30単位、半期で15単位までは大丈夫ですね。杉田くんも同じですね。英語圏でもフランス語圏でもその言語を専攻をしていればほとんど認められるわけですね。ただし、たとえば、社会学を専攻していて留学した場合など、専門が違う場合には、なかなか自分の専攻の単位には認定されないです。

(フロア6) 皆さんとは逆に、私は、留学体験は、外国か

ら日本に来るという形でしたが、ずーっと昔の話になります。また、いまの皆さんとは情報収集の仕方も違ってきますが、皆さん勇気をもっていろんなことを体験できて、良い留学体験だったと聞いていました。何十年前の日本は留学生がまだ珍しい状況でしたが、今ではいろんな国に留学生がたくさんいるという状況に変わってきていて羨ましい話です。

でも、自分の体験話は、体験していない人にはなかなか伝わらないという歯がゆいさがあると思います。私も日本で過ごした話を帰ったから話しても誰も聞いてくれないんですよ。興味がないというか…。でも自分の宝にして次の何かにつながればいいかなと思います。

(中尾) ありがとうございます。この体験を次につなげられれば本当に良いと思います。

今日は、就職活動で忙しい人も大変だったかもしれませんが、本当にありがとうございました。ふつつかな司会であまり深く切り込めなかったところもありますが、今日ここで話されなかったことも含めて、(パネリストの)皆さんは本当にいろんな体験を持っていらっしゃると思いますので、気になることがあれば、個人的にでも伺ってもらえればと思います。(おわり)

編集後記

豊橋語学教育研究室の新しい広報誌がスタートします。この創刊号のように、愛知大学語学研究室報 *Lingua* のスペースの収まりきらなかった記事や独自の記事を「ランゲージ・カフェ」のプログラムと合わせて掲載します。

その「ランゲージ・カフェ」ですが、今年度から「ランゲージ・カフェ特別版」と称して様々なイベントを開催する予定です。五月は、「シャンソン・コンサート」、六月は「トリード大学研修生歓迎会」…といった具合です。

読者の皆さんからのニュースもお待ちしています。ご連絡は以下の豊橋語学教育研究室までお寄せください。(中尾)

LAN・CAFÉ だより 2016年4月号(創刊号)

WEB版URL:

<http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken/kikanshi.html>

2016年3月25日発行

発行: 愛知大学豊橋語学教育研究室

〒441-8522 豊橋市町畑町1-1

TEL: (0532) 47-4170 FAX: (0532) 47-4184

URL: <http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken/>

2016年4月

LANGUAGE・CAFÉ 5限の部 プログラム

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
<p>EC=English Café CF=Café français</p>						
3	4	5	6	7	8	9
			<p>Course Overview Group Assignment and Discussion</p>  <p>Daniel Devolin</p>		<p>An introduction to the course and each other</p>  <p>Peter Lyons</p>	
10	11	12	13	14	15	16
	<p>Introduction</p>  <p>Michael Boyce</p>	<p>休暇について話す</p>  <p>Régis Olivero</p>	<p>Group Assignment and Discussion</p>  <p>Daniel Devolin</p>		<p>Finding the common ground (talking about our interests)</p>  <p>Peter Lyons</p>	
17	18	19	20	21	22	23
	<p>Appropriate communication language and techniques</p>  <p>Michael Boyce</p>	<p>休暇について話す</p>  <p>Régis Olivero</p>	<p>Group Assignment and Discussion</p>  <p>Daniel Devolin</p>		<p>Choosing topics (What do we want to talk about?)</p>  <p>Peter Lyons</p>	
24	25	26	27	28	29	30
	<p>Introduction to Opinions</p>  <p>Michael Boyce</p>	<p>経験を表す表現 (déjà/pas encore/jamais)</p>  <p>Régis Olivero</p>	<p>Group Assignment and Discussion</p>  <p>Daniel Devolin</p>		<p>First group 'light topic' discussion</p>  <p>Peter Lyons</p>	

LANGUAGE・CAFÉ お昼休みの部 : English Café 月・火・水 中文茶座 火 Café français 金